

令和 7 年度 宇都宮市立上河内中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。 【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・ 学び鍛える生徒
- ・ 自他を尊ぶ生徒
- ・ 気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・ 愛と情熱にあふれる教師
- ・ 研ぎあう教師
- ・ 実践する教師

☆ めざす学校像

- ・ 楽しく学びあえる学校
- ・ 協に伸びる学校
- ・ 信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （１）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を進めながら、生徒が生涯にわたって成長し続けるための基盤となる、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成に努める。
- （２）全教職員が、強い使命感と情熱をもって学校経営に参画し、学校教育目標の達成に向けて取り組むことで、生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、「地域とともにある学校づくり」に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）「確かな学力」を育むことをめざして
 - ① 学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
 - ② 習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
 - ③ 家庭学習の習慣化に向けた指導・支援の強化
 - ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ⑤ デジタル機器の効果的な活用（１人１台端末、ＡＩドリル等）
- （２）「豊かな心」を育むことをめざして
 - ① 道徳科の指導を中核とした道徳教育（宮っ子心の教育）の充実
 - ② 体験・ボランティア活動や読書活動等を通した豊かな心や創造性の涵養
 - ③ 委員会活動や学校行事を通した自己有用感や自己肯定感の涵養
- （３）「健やかな体」を育むこと（健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現）をめざして
 - ① 健康診断や新体力テスト等による現状把握・改善と体育に関する指導の充実に向けた取組の推進
 - ② 学校栄養職員や養護教諭の参画を通した食育や保健指導の更なる充実と推進
 - ③ 安心・安全な教育環境の整備に努めるとともに、交通安全教室や避難（防災）訓練等を通した安全に関する指導の充実
 - ④ 進んで運動に取り組む環境づくりの推進と性・薬物等に関する指導の充実（心身の健康の保持増進）
- （４）「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
 - ① ○ＪＴ・研修等を通した教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ② 情報共有の推進と共通理解・同歩調による指導の充実
 - ③ 校務のデジタル化等を通した業務の効率化及び適正な在校等時間を意識した「働き方改革」の推進（時間外在校等時間の削減）
- （５）「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
 - ① １人１台端末の活用を通した情報活用能力の定着とデジタル・シティズンシップ教育の推進（情報化・グローバル化社会への対応）
 - ② 宇都宮学の学習を通した地域への愛情と誇りをもてるような指導の充実
 - ③ 地域の教育資源の活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
 - ④ ＡＬＴの授業参画を通した英語を使ったコミュニケーション力の育成及び異文化理解・尊重の推進
- （６）小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ① 地域学校園で作成した小中一貫教育カリキュラムの確実な実践
 - ② 発達の段階に応じた学業指導の充実
 - ③ 地域学校園内の児童生徒交流及び教職員間の情報交換等の充実

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （１）基本方針

教育基本法・学校教育法等の法令及び学習指導要領に基づき、上河内特有の地域性や生徒、学校の実態等を考慮し、生徒の心身の発達段階に応じた編成を行う。
- （２）留意点
 - ① 学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
 - ② 学習指導要領で示されている各教科等の授業時数を確保する。
 - ③ 「総合的な学習の時間」において、教科等横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。
 - ④ 学校評価との関連付けを図り、ＰＤＣＡサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。
 - ⑤ 地域協議会等との連携を図るとともに「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営	
① 生徒一人一人を尊重する、特別支援教育の視点を生かした個に応じた支援の充実	・ いじめ根絶に向けたアンケート実施（早期発見）と早期対応
	・ ステップルームの利用促進による不登校生徒への適切な支援
② 教職員相互の融和・協働による組織の活性化及び教職員の負担軽減	・ 業務内容の精選・効率化の促進等による、在校等時間の適正化及び時間外在校等時間の削減
	・ 業務改善の意識高揚及び「語り場」の導入
	・ リフレッシュデー等の効果的な促進
③ 「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進	・ 部活動指導（休日）の地域移行に向けた協議会設置検討会議の実施
	・ 生徒の、地域行事等への積極的な参加及び参画の促進
(2) 学習指導	
① 確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫	・ 一人一台端末の効果的な利活用
② 家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化	・ eライブラリーを利用した家庭学習の確立
○③ 「学びに向かう集団」づくりの推進	・ 地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導
(3) 児童生徒指導	
○① 基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成	・ 生徒会活動（話し合い）を通じた自主的・自発的活動の意図的な設定
② 組織的な対応による、一人ひとりに寄り添った支援の充実	・ 生徒指導係会や教育相談係会・特別支援教育部会における情報共有と対策等の検討
○③ 「宮っ子心の教育」の推進	・ 体験活動・読書活動、及び道徳科の授業の充実
(4) 健康（体力・保健・食・安全）	
① 給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育指導の推進	・ お弁当の日、地域食材を生かした給食メニュー設定（行事食・地産地消等）
	・ 小中で連携した指導（食事マナー・衛生等）
○② 検診結果を踏まえた地域学校園として連携した保健指導の充実	・ 視力改善（維持）に向けた指導（デジタル機器による影響への対策等）
○③ 地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化	・ 保健体育科、部活動等における基礎体力の向上を目指した取組

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ②○必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③○家庭学習の習慣化と内容の充実を図るために、取り組み方を図書委員や放送委員と連携して示したり、グループ・クラスルームに提示したりして啓発する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 生徒は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いや りの心をもって優しく接して いる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○受容・共感・傾聴等の大切さにつ いて指導する。 ②○相手に対してどのように伝わる かなど、相手の心情を考えて話すよう 意識させる。 ③生徒会主催のいじめゼロ集会など を通して、生徒の思いやりに対する意 識を高める。 ④○道徳の授業や日々の生活におい て、時と場に応じた言動や相手への思 いやりについて生徒に考えさせ、意識 を高める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 生徒は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、目標に向かってあき らめずに、粘り強く取り組ん でいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①各学級で、1年間の学級目標を設定 し、定期的に振り返り、目標に向かっ て取り組むことを意識させ、達成感を 味わわせる。 ②定期テストにおいて、テスト計画表 を作成させる際に、数値目標など具体 的な目標を設定させ、計画的に取り組 ませる。 ③学校行事等において、生徒同士が目 標に向かって協働する姿を積極的に 認め励ます指導や、事後の振り返りを 通して、生徒の自己肯定感を高める。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A4 生徒は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付 けて生活している。 ⇒生徒肯定回答 80%	①保健だよりや健康委員会による活 動を通して、健康な生活について啓発 をする。 ②○新体力テストの結果を基に、不足 している基礎体力作りに取り組む。体 育の授業では計画的に補強運動を取 り入れ運動量の増加を目指す。 ③自転車通学の生徒が多いので、登校 指導や自転車点検、交通安全教室など の活動を通して、自転車の正しい乗り 方、交通安全の意識を高める指導を徹 底する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを 生かしたり、周りと協力し合 ったりして、進んで生活をよ りよくしようとしている。 ⇒生徒肯定回答 80%	①学級活動の時間を用いてキャリア パスポートを活用したり、自己の活動 を振り返らせたりすることにより、新 たな学習や生活への意欲につなげ、将 来の生き方を考えさせる。 ②各学年で自らの個性を把握し、把握 した個性を生かすという視点で進路 指導を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、英語の授業やALTと の交流の際に、英語を使って コミュニケーションしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○英語による授業を行う。また、教 員(ALTを含む)との対話活動や、生 徒がペアになって自分の考えや気持 ちを英語で伝え合う活動など、生徒が 発話する場面を多く設ける。 ②○チームティーチングの授業で、T1 とT2が英語でのやりとりのモデルを 多く見せることにより、生徒に自然と やりとりの仕方を身に付けさせる。 ③ALTが給食の時間に生徒と食事を しながら会話を楽しむ機会を設ける。	A	【達成状況】 【次年度の方針】

	A 7 生徒は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、宇都宮の良さをしっ ている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①地域の良さをを知るために、地域の人 と一緒にやって行事に参加すること により「郷土愛」を育む。 ②総合的な学習の時間において、宇都 宮学に取り組むことで郷土の良さを 再認識させる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を 学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	①各教科や総合的な学習の時間にお いて、タブレットやプレゼンテーショ ンソフトを利用して、調べ学習や発表 に取り組ませる。 ②国語科等の調べ学習において、積極 的に図書館を利用する。また、他教科 においても、授業で図書の活用を進め る。 ③クロムブックの e ライブラリーや まなびポケットなどの学習用アプリ ケーションを授業で積極的に利用さ せる。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、環境問題や防災等の 持続可能な社会について、関 心をもっている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①生徒会専門委員会を通して、節電や リサイクルによる再利用についての 呼びかけや、回収活動を実施すること で、生徒の関心を高める。 ②授業や学校行事を通して、「持続可 能な社会」や「SDGs」について理 解を深めさせ、身近なものに関連させ る。 ③避難訓練等を通して、火災や自然災 害の対策を身に付けさせ、自ら考え行 動する「生きる力」の育成を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする生徒の実態に応じ て、適切な支援をしている」 ⇒教職員肯定回答 90%	①特別な支援を必要とする生徒の実 態を把握し、校内支援委員会を実施 し、共通理解を図る。 ②生徒指導係会や教育相談係会等を 定期的に行い、生徒に対する支援の共 通理解を図る。 ③SCやMS等と連携を図り、ステッ プルームの利用など、個に応じた対応 に心掛ける。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、いじめが許され ないことを熱心に指導してく れる」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇休み時間の巡回指導や教育相談、 嫌な思いアンケートを活用して、いじ めを早期に発見する取り組みに努め る。また、生徒の不適切な言動に対 して細かな声掛けを行う。 ②〇いじめに対しては、いじめ対策委 員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③〇保護者会やHP、各種だより等で 取組を周知する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 12 教職員は、不登校を生 まない学級経営を行って いる。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切 にし、生徒がともに認め励ま し合うクラスをつくってくれ ている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇教育相談係会において、不登校傾 向の生徒について、SC、MSと連携 した対応を検討し、全教職員が共通理 解の下、支援に当たる。 ②〇Q-Uの結果や日記指導（宮っ子 ダイアリー）、エンカウンター等を実 施することで、学級集団としての状態 や、生徒一人一人の意欲や満足感を把 握し、学級経営に生かす。 ③〇自尊感情を高めるような声掛け を全教職員で実施する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、困ったときに相 談に乗ってくれたり、問題を 解決しようとしていたりして、私 たちが楽しく学校生活を送れ るようにしている。 ⇒生徒肯定回答 80%	①学校行事や生徒会活動が感動ある 活動になるように、生徒が主体的に企 画・運営・参加できるように指導する。 ②生徒が自ら考える機会を数多くつ くり自主的活動を充実させ、生徒一人 一人が達成感や自己肯定感を得られ るような集団づくりを推進する。 ③エンカウンター等の人間関係を円 滑にさせる取組を充実させるなど、居 心地の良い学級づくりを推進する。 ④多様な教育的ニーズを意識し、生徒 や保護者への適切な支援に心掛ける。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方の授業は分りやす く、一人一人に丁寧に教えて くれる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①TTや習熟度別学習などの少人数 指導の工夫により基礎・基本の定着を 図り、本時のめあてを明示し振り返り を記入させることにより、「分かる授 業・できる授業」を目指し、指導法の 改善に努める。 ②〇「表現力を高め、自分の考えを深 め合う授業」をテーマとした「一人一 授業」を実践し、個々の教員の授業力 向上を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチ ームとなり、協力して業務に 取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	①職員間で円滑なコミュニケーション を心がけるとともに、全体で共有し たことを確認しながら業務を遂行す る。 ②教職員が互いのよさを認め合いな がら、学校行事の準備・運営や諸問題 への対応を互助的、組織的に行う。 ③各種部会・委員会を定期的に開催 し、リーダーを中心にそれぞれが機能 する体制づくりに努める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を 意識して、業務の効率化に取 組んでいる。」 ⇒教職員肯定回答 80%	①学校経営方針に基づき教育活動を 実践するとともに、教職員が担う業務 の明確化・適正化を検証する。 ②職員会議や校務運営委員会での協 議と報告を分け、会議等の効率化・適 正化を図り、会議の勤務時間内終了に 努める。 ③宇都宮市部活動の指針に基づき、各 部活動が適正な計画を立案し、活動時 間の見直しなど望ましい部活動の在 り方を実践する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、地域学校園の小学 生や中学生、先生と、授業や 行事、掲示物などで交流する 活動を行っている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇地域学校園内小中学校間の連絡・ 調整等を密に行い、小中合同あいさつ 運動や進学先中学校訪問等における 活動の充実を図る。 ②〇小中一貫教育における「『ゆず っ子』の学びの5つの約束」の内容を 再確認し、周知・徹底を図る。 ③〇小中一貫の各種取組状況を、各種 便りやホームページ等で発信する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充	①家庭や上河内中学校地域協議会な どと連携し、地域学校園の諸活動と関 連させながら、農園活動や読み聞かせ		【達成状況】

5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定回答 80%	などの地域人材を活用した諸活動を推進する。 ②〇望ましい礼儀やマナーを育成するため、あいさつ運動や場に応じた適切な言葉づかいの標語募集等の取組や日常的な指導を、地域学校園内小・中学校及び地域協議会が連携・協力して行う。 ③特産品のゆず、羽黒山などの地域の特色を生かした取組を、地域協議会をはじめ、地域住民や企業等と連携して展開する。	B	【次年度の方針】
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的回答 80%	①安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的の実施し、校内の安全確保に努める。 ②管理職や事務、学校業務担当（機動班）が連携を図り、施設等の迅速な修繕に努める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務の改善に、デジタル機器を積極的に活用している」 ⇒教職員肯定回答 80%以上	① I C T機器を活用するために校内研修等を行い、スキルアップを図る。 ②授業担当と司書が連携し、クラスルームに参考資料リストを載せ、授業で紹介する。（パスファインダー）	B	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を活発に行い、指導の充実を図る。 ②〇教職員が率先してあいさつをすることで、学校全体があいさつをする雰囲気高める。 ③〇あいさつ標語の募集を行い、率先してあいさつをする意識を高める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇学級活動や生徒会活動、学校行事を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②〇5分前行動、2分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

地域学校 共通	B 3 生徒は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事（梵天祭りやふれあいまつり、文化交流祭等）に参加し、交流している。 【数値指標】全体アンケート「私は、上河内地区のお祭り、イベント、標語や写真展の作品募集などの地域行事（梵天祭りやふれあいまつり、文化交流祭等）に参加し、交流している。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①生徒が地区の催事にボランティアとして参加したり、作品を出品したりするなど、地域と交流を図る。 ②〇郷土愛や愛国心を育てるため、生徒に梵天祭等への参加を促すとともに羽黒山等の清掃活動「羽黒山ボランティア」等を実施する。 ③地域との交流活動の様子を、各種便りや学校ホームページ等で発信する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特色・課題等	B 4 生徒は、総合的な学習の時間等では、学んだ知識や技能を生かし、協力してまとめたり、分かりやすく発表したりすることができている。 【数値指標】全体アンケート「私は、総合的な学習の時間では、学んだ知識や技能を生かし、協力してまとめ、分かりやすく発表することができた。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①調べ学習（ＩＣＴ機器や学校図書館等の利活用）に必要な、情報を集めたり活用したりする技能を高めさせる。 ②グループ内で意見を共有するために、canva等のアプリケーションを活用させる。 ③協働する学習を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。 ④様々な教科で自分の考え等を発表する活動を行い、発表力を高めさせる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。